

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第1項に基づく

中津市教育委員会施策の
点検・評価に関する報告書
(平成25年度対象)

平成26年8月28日

中津市教育委員会

目 次

| | | |
|-----|-----------------|----|
| I | はじめに | 1 |
| 1. | 目的 | 1 |
| 2. | 点検・評価の実施方法等 | 1 |
| (1) | 法定事項 | 1 |
| (2) | 実施方法 | 1 |
| 3. | 自己評価及び総合評価の判定基準 | 1 |
| (1) | 自己評価について | 1 |
| (2) | 総合評価について | 2 |
| II | 点検・評価 | 3 |
| 1. | 施策名と評価一覧 | 3 |
| 2. | 評価の分析 | 6 |
| 3. | 施策毎の目標、達成状況等 | 7 |
| (1) | 表の見方 | 7 |
| (2) | 各施策の内容 | 8 |
| III | 学識経験を有する者の知見 | 44 |
| IV | おわりに | 47 |

I はじめに

1. 目的

平成 19 年 6 月に一部改正（平成 20 年 4 月 1 日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和 31 年法律第 162 号）第 27 条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされました。

そこで、中津市教育委員会では、教育委員会が立てた基本方針にそって具体的な教育行政が執行されているかについて、教育委員会自らが事後にチェックし、今後の効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすため、この点検・評価を実施し、報告書にとりまとめました。

2. 点検・評価の実施方法等

(1) 法定事項

点検・評価の実施については、次の 4 点が法定事項になっています。

- ①毎年実施すること。
- ②教育委員会の権限に属する事務(教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務を含む。)の管理・執行状況について点検・評価を行うこと。
- ③点検・評価の実施に当たっては、学識経験を有する者の知見の活用を図ること。
- ④点検・評価結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表を行うこと。

(2) 実施方法

①対象期間

平成 25 年度の管理・執行状況

②点検・評価の項目について

中津市教育委員会では、市教育行政の長期的、総合的な指針として、第四次中津市総合計画（平成 20 年 12 月策定）及び中津市教育振興基本計画（平成 21 年 3 月策定）に基づき各種施策を推進しており、平成 25 年度は重点的な 41 項目について点検・評価を行いました。

③学識経験を有する者の知見の活用について

教育に関し学識経験を有する者の知見活用に当たっては、教育委員や現職教員・事務局職員ではない者で、教育に関して公正な意見を述べるのが期待できる人の知見を活用しました。

④報告・公表方法

点検・評価結果に関する報告書は、定例市議会（文教経済委員会）に提出し、その後、中津市教育委員会のホームページに公表します。

3. 自己評価及び総合評価の判定基準

(1) 自己評価について

事業主管課長が、適応性・効率性・達成度の 3 つの着眼点で、5 段階で自己評価しました。

| 評価項目 | 着 眼 点 |
|------|------------------------|
| 適応性 | ①市民ニーズや社会の変化に対応しているか |
| | ②同じ目的を達成するために他に手段はないか |
| 効率性 | ③内容の見直しや重点化を行っているか |
| | ④事業の円滑な推進のための調整を行っているか |
| 達成度 | ⑤当初の目標どおりに進めることができているか |

【ランク説明】

| ランク | 着 眼 点 |
|-----|----------------------|
| 5 | 達成（80%以上） |
| 4 | 着実に進捗（相当程度達成・79～60%） |
| 3 | やや不十分（59～40%） |
| 2 | 不十分（39～20%） |
| 1 | 抜本的見直しが必要（19～0%） |

（2）総合評価について

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価をしました。

| ランク | 着 眼 点 |
|-----|-------------------------|
| A | 優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている |
| B | 優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える |
| C | 一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する |
| D | 成果が上がってなく、改善を必要とする |
| E | 抜本的見直しが必要 |

II 点検・評価

以下に、平成 25 年度の具体的な施策内容、評価結果などについて報告します。

1. 施策名と評価一覧

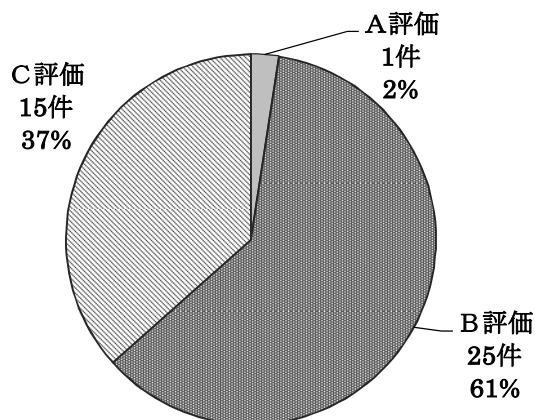
| 施策別 基本目標 | 基本姿勢 | | 施策名 | 自己 評価 | 総合 評価 | 所管課 |
|-------------------------------------|----------------------|-----------------|-------------------------|-----------------------|----------|------------------|
| 教育委員会の充実 | 教育委員会の活性化 | 1 | 教育委員会活動の充実 | 4 | B | 教育総務課 |
| | 教育行政の推進 | 2 | 市民等の意見・要望の反映 | 3 | C | 学校教育課 |
| 施設設備 (学校施設の安全・安心な 環境整備) | 学校施設耐震化対策 | 3 | 耐震補強及びトイレ 設備改修の計画的推進 | 5 | A | 教育総務課 |
| 学びの基礎を培う学校教育 (一人ひとりを大切にす る教育) | 幼(保)小中(高)連 携 | 4 | 幼稚園教育の充実 | 4 | B | 学校教育課 |
| | | 5 | 小1プロブレム・中 1ギャップの改善 | 4 | B | 学校教育課 |
| | 学力向上対策 | 6 | 授業改善による学力 向上対策 | 3 | C | 学校教育課 |
| | | 7 | 小中連携による学力 向上対策 | 4 | B | 学校教育課 |
| | | 8 | 学びのススメ塾・学 びのススメ英検塾 | 3 | C | 学校教育課 |
| | | 9 | 地域の教育資源の活 用推進 | 4 | B | 学校教育課 |
| | | 不登校ゼロの学校 づくり | 10 | 不登校未然防止と適 応指導教室の充実 | 4 | B |
| | 11 | | いじめ問題対策 | 3 | C | 学校教育課 |
| | 特別支援教育の充 実 | 12 | 教育補助員の拡充 | 4 | B | 学校教育課 |
| | 授業力向上 | 13 | 教職員研修の充実 | 4 | B | 学校教育課 |
| | 学校適正規模・適正 配置の指針検討 | 14 | 小規模小学校適正配 置の検討 | 3 | C | 耶馬溪教育 C 教育総務課 |

| 施策別 基本目標 | 基本姿勢 | 施策名 | 自己 評価 | 総合 評価 | 所管課 |
|----------------------------|--------------------------|---------------------------|----------|----------|-------|
| 学校と家庭の連携 | 家庭教育の充実 | 15 P T Aとの連携強化 | 3 | C | 学校教育課 |
| | | 16 生活習慣、学習環境、 家庭学習 | 3 | C | 学校教育課 |
| | | 17 生活習慣、学習習慣、 家庭学習 | 3 | C | 社会教育課 |
| 施設設備 (その他の施設整備) | コミュニティー センター | 18 コミュニティーセン ターの計画的建設 | 4 | B | 社会教育課 |
| 学びつづける生涯学習 (郷土に誇りを持つ市民) | 中津市地域協育 振興プラン推進 事業 | 19 中津市地域協育振興 プラン推進事業 | 3 | C | 社会教育課 |
| | | 20 放課後こども教室 (学びの教室) | 3 | C | 社会教育課 |
| | 「郷土愛教育」循 環システムの構 築 | 21 ワンパク！たんけん 中津 | 4 | B | 社会教育課 |
| | | 22 なかつキッズ・サイ エンス | 4 | B | 社会教育課 |
| | | 23 三保小学校人形劇ク ラブの育成 | 3 | C | 社会教育課 |
| | | 24 福澤諭吉記念事業 | 4 | B | 社会教育課 |
| | | 25 公民館活動における 地域のふるさと学習 | 4 | B | 社会教育課 |
| | | 26 中津市生涯学習大学 「中津学」 | 4 | B | 社会教育課 |
| | | 27 なかつ学びんびっく (子ども中津検定) | 3 | C | 社会教育課 |
| | | 28 偉人シリーズ、マン ガ本の発刊 | 3 | B | 文化財課 |

| 施策別 基本目標 | 基本姿勢 | 施策名 | 自己 評価 | 総合 評価 | 所管課 |
|---|-----------------|--|----------|----------|-------------|
| 文化芸術の香るまち (文化・芸術活動の推進) | 図書館の充実 | 29 利便性の向上 | 3 | C | 小幡記念 図書館 |
| | | 30 学校図書館との連携 | 4 | B | 小幡記念 図書館 |
| | | 31 子ども読書活動推進 実施計画の策定 | 4 | B | 小幡記念 図書館 |
| | 文化・芸術活動の推 進 | 32 芸術文化事業 (木村記念美術館) | 4 | B | 小幡記念 図書館 |
| | 歴史、文化の継承 | 33 展示施設の計画的な 整備と利用促進 | 4 | B | 文化財課 |
| | 旧城下町地区史跡 等活用 | 34 史跡等整備工事、説 明板・誘導サイン設 置、中津城イベント 実施 | 4 | B | 文化財課 |
| 健康づくり (生涯にわたるスポーツ 振興「心豊かで健康な生活 を」) | スポーツ施設の充 実 | 35 スポーツ施設の計画的な 整備 | 4 | B | 体育・給食課 |
| | | 36 スポーツ施設の利用 促進 | 4 | B | 体育・給食課 |
| | スポーツの振興 | 37 生涯スポーツの推進 | 3 | C | 体育・給食課 |
| | 学校保健・体育の充 実 | 38 学校保健・体育環境 の充実 | 4 | B | 学校教育課 |
| 健康な体づくり (安全安心でおいしい学 校給食) | 地産地消の推進 | 39 生産者(団体)との 連携 | 4 | B | 体育・給食課 |
| | 食育の推進 | 40 児童生徒、保護者へ の啓発 | 3 | C | 体育・給食課 |
| | 施設・設備の改修 | 41 全調理場のドライシ ステム化及び機械、 器具等の更新 | 4 | B | 体育・給食課 |

2. 評価の分析

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価したところ、A評価1件、B評価25件、C評価15件となりました。



| ランク | 着 眼 点 |
|-----|-------------------------|
| A | 優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている |
| B | 優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える |
| C | 一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する |
| D | 成果が上がってなく、改善を必要とする |
| E | 抜本的見直しが必要 |

各課では教育の向上を図るために、毎年より高い意識を持って施策の目標設定を行っており、その達成に努めています。その結果、評価ランクの割合は、A評価への到達は非常に厳しくなっており、1施策のみとなっています。

A評価を受けた施策は、「耐震補強及びトイレ設備改修の計画的推進」で平成23年度に『学校施設耐震化補強計画』完了年度を前倒し、事業完了を平成26年度とし、計画通りに進捗していることによるものです。

また、D評価を受けた施策が、去年の1施策からゼロに減り、C評価の割合が、37%となっています。今後も、より高い目標の達成を目指し、施策の設定及び評価を継続していきたいと考えています。

3. 施策毎の目標、達成状況等

(1) 表の見方

表の項目について、大、中、小とありますが、これは、それぞれ大分類（施策別基本目標）、中分類（基本姿勢）、小分類（施策名）を指しています。

| 大 分 類 | | 中 分 類 | |
|-------|-------------------------------------|-------|------------------|
| 1 | 教育委員会の充実 | A | 教育委員会の活性化 |
| | | B | 教育行政の推進 |
| 2 | 施設設備（学校施設の安全・安心な環境整備） | C | 学校施設耐震化対策 |
| 3 | 学びの基礎を培う学校教育 （一人ひとりを大切にする教育） | D | 幼（保）小中（高）連携 |
| | | E | 学力向上対策 |
| | | F | 不登校ゼロの学校づくり |
| | | G | 特別支援教育の充実 |
| | | H | 授業力向上 |
| I | 学校適正規模・適正配置の指針検討 | | |
| 4 | 学校と家庭の連携 | J | 家庭教育の充実 |
| 5 | 施設設備 （その他の施設整備） | K | コミュニティーセンター |
| 6 | 学びつづける生涯学習 （郷土に誇りを持つ市民） | L | 中津市地域教育振興プラン推進事業 |
| | | M | 「郷土愛教育」循環システムの構築 |
| 7 | 文化芸術の香るまち （文化・芸術活動の推進） | N | 図書館の充実 |
| | | O | 文化・芸術活動の推進 |
| | | P | 歴史、文化の継承 |
| | | Q | 旧城下町地区史跡等活用 |
| 8 | 健康づくり （生涯にわたるスポーツ振興「心豊かで健康な生活を」） | R | スポーツ施設の充実 |
| | | S | スポーツの振興 |
| | | T | 学校保健・体育の充実 |
| 9 | 健康な体づくり （安全安心でおいしい学校給食） | U | 地産地消の推進 |
| | | V | 食育の推進 |
| | | W | 施設・設備の改修 |

(2) 各施策の内容

| No | 分類 | | | 目 標 |
|----|----|---|--------------|--|
| | 大 | 中 | 小 | |
| 1 | 1 | A | 教育委員会活動の充実 | <p>定例教育委員会は毎月開催、臨時教育委員会、教育委員懇話会及び教育委員勉強会は、必要に応じて随時開催している。</p> <p>年間2回、定例教育委員会を移動教育委員会として、各支所輪番で開催している。(平成24年度 7月…耶馬溪支所、1月…山国支所)</p> <p>また、定例教育委員会開催後には、内容をホームページで紹介している。</p> <p>今までの取り組みは継続しつつ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校訪問と別に小中学校長やPTAとの意見交換会の開催 ○社会教育委員など各種委員会との意見交換会の開催 ○先進地視察など研修機会の拡充を図る。 |
| 2 | 1 | B | 市民等の意見・要望の反映 | <p>開かれた学校づくりや市の教育行政を推進するとともに、保護者や地域との積極的な連携を図るため、以下のことに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学校の自己評価及び学校関係者評価を積極的に公表する。 ○中津市教育委員会のホームページをさらに充実させる。 ○各学校ホームページの情報セキュリティについて適切に指導する。 ○地域住民や保護者及び学校現場からの意見や要望に対して真摯に対応し、関係部局とも連携を取りながら対処する。 |

| 達成状況 | 自己評価 | 総合評価 | 所管課 |
|---|------|------|-------|
| <p>○毎月1回、定例教育委員会を開催し、会議に諮られた議案(52件)及び報告(27件)等について、教育委員による活発な意見出しや質疑を行うとともに、諮られた案件について指導・指示し、案件の可決・了承を行った。また、喫緊の案件については、その都度、臨時教育委員会を開催し(5回)、速やかにその対応を実施した。</p> <p>○教育委員会開催時には、原則公開として開催予定を広報するとともに、傍聴希望者(18人)については入室を許可した。また、様々な方が容易に傍聴できるよう、市庁舎外での会議開催(三光支所12/15, 本耶馬溪支所1/19)にも取り組むと共に、会議録の開示希望者については公開(2件)した。</p> <p>○教育行政を推進するにあたり必要に応じ、事務局等が行う事業の事前説明を求めると共に進捗状況等において、課題や対応・目途等の説明を求め、事業の現状把握と方向性の指導・指示を行った。</p> <p>○5月と11月に、教育委員が分担して、幼稚園、小・中学校を訪問し、各園・学校の現状や取り組みを視察し、意見を交換した。</p> <p>○PTA代表(3/18)及び社会教育委員(3/19)との懇談を実施した。</p> <p>○大分県市町村教育委員連合会総会(豊後高田市:5/28)に参加し、「教育委員会制度」について、受講した。</p> <p>○武雄市教育委員会(市立山内東中学校)を視察(11/7)し、「タブレット端末の活用」について研修を行った。</p> <p>○従来の「市報なかつ」、ホームページでの告知に加え、広報広聴課発行の「例月行事予定表」に掲載をした。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○めまぐるしく変化する社会情勢の中で、教育を取り巻く環境も絶えず変化しているため、その変化や多様化する課題を的確に把握し、今まで以上に迅速に対応していく。</p> | 4 | B | 教育総務課 |
| <p>○各学校は学校評議員制度を効果的に活用し、保護者や地域からの意見を把握するなどして学校運営の改善に努めることができた。</p> <p>○積極的な情報提供のために学校ホームページの更新を毎月1回、定期的に行った。</p> <p>○市教委は、「学校教育の動き」としてホームページに掲載し、4月より毎月2回程度の更新を行い、学校行事などでの子どもたちの活動を中心に積極的な情報提供を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○地域や保護者との連携促進のため、自己評価・学校関係者評価の様式を設定するなど、学校評価の公表を含め、学校のホームページをより一層充実させる。</p> <p>○各学校ホームページの情報セキュリティについて、万全を期す。</p> <p>○地域や保護者の要望や意見に対して、関係部局とさらに連携を取りながら前向きに対処していく。</p> | 3 | C | 学校教育課 |

| No | 分類 | | | 目 標 |
|----|----|---|---------------------|---|
| | 大 | 中 | 小 | |
| 3 | 2 | C | 耐震補強及びトイレ設備改修の計画的推進 | <p>学校施設耐震化の早期実施に向け、推進計画により、計画的に耐震化を推進し、それに併せて、トイレ設備改修の必要性を見極め、改修を行う。また、内装の木質化が行いやすい箇所には、積極的に木材利用を図る。</p> <p>○中津中学校屋内運動場(棟番⑤:2期)改築事業、今津(棟番③-1, ③-2)・豊田(棟番⑫)・北部(棟番③)・如水(棟番⑬)・小楠(棟番⑨)・沖代(棟番②)小学校校舎、緑ヶ丘中学校校舎(棟番⑤, ⑦)の耐震補強及びトイレ設備改修を行う。</p> <p>※中津中学校は平成24～25年度の2ヶ年事業</p> |
| 4 | 3 | D | 幼稚園教育の充実 | <p>幼稚園教育の充実を図り、保護者から信頼される魅力ある幼稚園教育を実践する。</p> <p>○魅力ある教育課程の編成、保育所や小学校との連携交流、体験活動の重視や地域資源(ひと・もの・こと)の活用、保護者との連携による基本的な生活習慣を確立する。</p> <p>○研修内容を充実し、教職員の指導力及び資質の向上を図る。</p> <p>○就園率向上のため、3園(北部幼・豊田幼・大幡幼)にて、18:00までの預かり延長を試行する。</p> <p>○教育活動をホームページで紹介し、入園受付や説明会をさらに工夫し、啓発活動を推進する。</p> |

| 達成状況 | 自己評価 | 総合評価 | 所管課 |
|--|------|------|-------|
| <p>○平成 25 年 10 月 4 日事業完了 今津小学校校舎（棟番③-1, ③-2）</p> <p>○平成 25 年 10 月 7 日事業完了 豊田小学校校舎（棟番⑫）、北部小学校校舎（棟番③） 如水小学校校舎（棟番⑬）、小楠小学校校舎（棟番⑨） 沖代小学校校舎（棟番②） 緑ヶ丘中学校校舎（棟番⑤, ⑦）】</p> <p>○平成 25 年 8 月 1 日事業完了 中津中学校屋内運動場(棟番⑤：2 期)改築事業】</p> <p>○耐震化率 90.9% 121 棟中 110 棟（残り 11 棟）</p> <p>○「中津市公共建築物等における地域材の利用の促進に関する基本方針」を踏まえ、内装木質化など活用できる部分について、活用を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○耐震化推進計画は、平成 26 年度が最終年度となっている。耐震補強完了後は、非構造部材の耐震化、トイレの改修を行い、児童生徒の安全安心と学校生活環境の改善をさらに進めて行く。</p> | 5 | A | 教育総務課 |
| <p>○各幼稚園において、小学校との交流がなされている。一部の保育所園では、小学校への合同見学会などが実施されるようになった。（連続性のあるカリキュラム作成、遠足・運動会での交流、小学校体験、職員間の情報共有など）</p> <p>○市主催の研修会を毎年 2 回、開催している。</p> <p>○平成 25 年度預かり率の最終実績は、55.9%（前年比 2.2%増）となっている。</p> <p>○ホームページでの園活動の紹介が十分にできなかった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○だひ保育園・今津幼稚園・今津小学校で取組んだ「小1プロブレム対策推進事業」の成果を還元し、教育内容の接続を図る教育課程の編成を充実させるとともに、保育所・私立幼稚園と小学校との交流保育を一層推進する。</p> <p>○就園率向上のため、全 11 園にて 18：00 までの預かり延長を実施する。</p> <p>○学校教育課にて、幼稚園のホームページ作成を充実させる。</p> | 4 | B | 学校教育課 |

| No | 分類 | | | 目 標 |
|----|----|---|-------------------|--|
| | 大 | 中 | 小 | |
| 5 | 3 | D | 小1プロブレム、中1ギャップの改善 | <p>幼保小中の円滑な接続を図り、小1プロブレムの発生を抑え、中1ギャップを解消する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園・小学校の接続を図る教育課程の編成を実施し、その効果検証を図る。 ○だいひ保育園・今津幼稚園・今津小学校を中心として取組む「小1プロブレム対策推進事業」を継続する。 ○各中学校ブロックでの小中連携の内容充実を図る。 (学び合いのある授業づくりの実践) |
| 6 | 3 | E | 授業改善による学力向上対策 | <p>「学び合いのある授業づくり・1時間完結型授業・板書の工夫・ノート指導」の実践をさらに浸透させる。 また、低学力層の底上げ、基礎基本の定着、活用する力の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究主任会議を一層充実させ、各学校の校内研修を活性化させる。 ○校内研修会等への指導主事、学校指導専門員の積極的な参加による指導・助言の継続。 ○学力向上支援員5名（平成25年度中津中、三光中、山口小、豊田小、沖代小配置）による授業改善の推進を図る。 ○学習補助員（10名配置）の効果的な活用 ○国際化に対応できる子どもの育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ALTによる早い段階での外国語に慣れ親しむ取り組みを実施する。 (幼稚園全園隔週1回実施・小学校1～4学年月1回程度実施) ○読書活動の充実と調べ学習に対応できる図書館づくり <ul style="list-style-type: none"> ・2校に1名の学校司書（計16名）を配置する。 ・学校図書館の充実、読書活動の推進、学習活動の支援、心の居場所づくりを行う。 (県派遣の学校図書館コーディネーターの活用・学校図書館ボランティアの試行) ○市基礎基本定着調査の拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・小2～中3で実施 (その学年で身につけるべき基礎的な知識・技能の確実な習得…フォロー学習) |

| 達成状況 | 自己評価 | 総合評価 | 所管課 |
|---|------|------|-------|
| <p>○今津小学校では、これまでの幼保小連携の成果を取り入れた接続期の教育課程（1年生スタートカリキュラム）を継続し実施することで、入学後の1年生がこれまで以上に円滑な小学校生活を始めることができた。</p> <p>○「小1プロブレム対策推進事業」の成果等を「中津市幼保小連携に係る研修会」「中津市幼保小連携協議会」において報告し、連携推進に繋げた。</p> <p>○小中連携では、相互の授業参観や職員の合同研修の場が増加。また、PTAの合同研修会を実施する学校ブロックも増えた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○「小1プロブレム対策推進事業」の成果の還元や「中津市幼保小連携協議会」を引き続き効果的に開催することで、幼保小の連携や交流を深め、小1プロブレム解消を目指す。</p> <p>○引き続き、「幼保小連携担当」を小学校の校務分掌に位置づけ、計画的な取り組みを行う。</p> <p>○小中連携の意識を更に高め、授業交流や生徒指導面での情報交換を一層充実させる。</p> | 4 | B | 学校教育課 |
| <p>○「学び合い」の理念や理論の共有化ができ、学校全体として授業改善に取り組む学校も増加している。</p> <p>○子どもにとってわかりやすい授業として板書やノート指導の工夫が多くの学校でなされている。</p> <p>○県基礎基本定着調査や全校学力調査結果から見ると、活用力の育成は不十分である。そのためには、学び合いのある授業づくりにおいて、課題解決を図る授業改善を行う必要がある。</p> <p>○学力向上支援教員配置校では、自主公開や学力向上支援教員による授業が合計50回を越え、授業改善の取り組みを発信できた。</p> <p>○ALTの活用については、幼稚園での取り組みが実施できておらず、次年度への課題である。小学校低学年では、小規模校を中心に触れあい活動が出来ている。</p> <p>○3～4校に1名の学校図書館司書の配置により学校図書館の環境整備が充実してきた。今後は、学校と連携して読書活動の推進や学習支援に向けての取り組みを積極的に行いたい。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○「学び合いのある授業づくり・1時間完結型授業・板書の工夫・ノート指導」の実践を更に浸透させる。</p> <p>○習熟度別指導、個別指導、NPO法人との連携による補充授業や英語検定指導、学校図書館を活用した授業などに取り組み、低学力層の底上げ、基礎基本の定着、活用する力の育成の一層の充実を図る。</p> | 3 | C | 学校教育課 |

| No | 分類 | | | 目 標 |
|----|----|---|-------------------|--|
| | 大 | 中 | 小 | |
| 7 | 3 | E | 小中連携による学力向上対策 | <p>全中学校ブロックで「小中連携会議」、「相互授業参観」及び「授業交流」などを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成 25 年度学力向上支援事業の取り組みを行い、自主公開授業、教科授業研究会などを積極的に行う。 ○小中連携会議、授業交流（小中学校の教員乗り入れ授業）、授業研究会への相互参加、小中合同研修会を継続して実施し、学力向上を推進する。 ○研究主任会議を一層充実させ、各学校の校内研究を活性化させる。 ○学校指導専門員を積極的に活用し、小中連携による学力向上を推進する。 ○家庭へ対して「家庭学習の手引き」の周知徹底を図るとともに、学活などを通して随時指導する。 |
| 8 | 3 | E | 学びのススメ塾・学びのススメ英検塾 | <p>学びのススメ塾により、小中学生の基礎基本の定着を支援し、学びのススメ英検塾により、中学生の英検（3・4・5級）の取得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○長期休業中（夏休み 5 日・冬休み 3 日・春休み 3 日）に 2 時間程度、基礎基本の定着を目指す小中学生を対象に補充学習を実施する。 ○毎週水曜日の放課後に 1 時間程度、英検取得を目指す中学生を対象とした補充学習を実施する。 |

| 達成状況 | 自己評価 | 総合評価 | 所管課 |
|--|------|------|-------|
| <p>○「小中連携会議」「相互授業参観」は全ての小中学校で実施された。</p> <p>○中学校教員が小学校で授業を行う「授業交流」は継続して実施された。 ※兼務発令などを行い積極的に実施しているのは今津中学校区など</p> <p>○小中の教職員の合同研修会を行う中学校ブロックが増加。研究主任会の中でブロックごとの協議の時間を設定し、定期的な情報交換につなげている。</p> <p>○学校指導専門員が積極的に小中連携を推進している。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○「小中連携会議」及び「相互授業参観」「授業交流」などを一層充実させる。</p> <p>○小中学校で作成されている「家庭学習の手引」を活用することで、児童生徒の生活習慣について保護者と積極的に協議を行う。</p> | 4 | B | 学校教育課 |
| <p>○学びのススメ塾（小5…国・算 中2…英・数）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小5年生対象→参加率（春休み 43%・夏休み 43%・冬休み 37%） ・中2年生対象→参加率（春休み 16%・夏休み 12%・冬休み 12%） <p>（参考）平成25年度大分県基礎基本定着状況調査結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校5年生正答率→国語…67.8（県70.0）、算数…71.5（県72.5） ・中学校2年生正答率→国語…66.0（県67.6）、数学…60.0（県61.5）、英語…62.9（県63.2） <p>○学びのススメ英検塾（中学生対象）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3級受講者 50名→受験者30名、合格者29名（合格率97%） ・4級受講者 200名→受験者63名、合格者27名（合格率43%） ・5級受講者 87名→※受験者、合格者などについては確認中 <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○「学びのススメ塾」を、学校事情に応じた柔軟な対応が可能な事業にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に、小学校での夏休みは、学校の主体性を重視した取り組みとする。 <p>○「学びのススメ英検塾」は、受講者及び英検受験者の増員に向けた取り組みを行う。</p> | 3 | C | 学校教育課 |

| No | 分類 | | | 目 標 |
|----|----|---|-------------------|--|
| | 大 | 中 | 小 | |
| 9 | 3 | E | 地域の教育資源の活用推進 | <p>中津市にゆかりのある郷土の偉人福澤諭吉などについて、詳しく知り、地域の伝統・文化を学び、そこに生きるすばらしさを実感し、郷土に誇りをもち、「ふるさとなかつ」を語れるような児童・生徒を育成する。</p> <p>○中津市の郷土の偉人（福澤諭吉など）に関する読書感想文・画コンクールを行う。また、各学校は地域の人材を活用した取り組みを実践する。</p> <p>○社会教育課と連携した「なかつスクスクプロジェクト」が円滑に取り組まれるために、各学校で「地域協育担当教員」による活動を充実させる。</p> <p>○地域教材「私たちの中津市」を活用した授業実践を一層推進する。</p> <p>○「まちなみ歴史探検」事業を積極的に活用する。</p> |
| 10 | 3 | F | 不登校未然防止と適応指導教室の充実 | <p>不登校（不登校を理由に年間30日以上欠席）の児童生徒数の減少を目指す。</p> <p>（※目標値として、小学校出現率0.35%、中学校出現率2.5%）</p> <p>また、不登校の未然防止として、魅力ある学校づくり（授業づくり・学び合い・仲間づくり）を一層推進する。</p> <p>○適応指導教室事業を活用した教職員の研修（適応指導教室担当指導主事を学校に派遣など）を実施するよう各学校に働きかける。長期欠席者について個票を作成し、指導経過を明確にし、組織的に支援する。学校指導専門員、不登校対応指導員、不登校対応嘱託員の活用を図る。</p> <p>○登校渋りの段階での早期対応を学校と連携して積極的に行う。</p> |

| 達成状況 | 自己評価 | 総合評価 | 所管課 |
|--|------|------|-------|
| <p>○「なかつスクスクプロジェクト」に係る「地域協育担当教員」を全ての小中学校の校務分掌に置き、地域の人材を活用した取り組みを教育課程の中に位置づけて実践した。</p> <p>○本年度も読書感想文・画コンクールを実施し、小中学生からの応募があり、内容的にも充実したものになっている。</p> <p>○地域教材「私たちの中津市」については、各小学校において社会科の時間を活用して、使用されている。</p> <p>○全ての小学校において「まちなみ歴史探検」事業が定着し、積極的に活用されている。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○中津市歴史民俗資料館や福澤旧居等をはじめとする地域文化施設を活用した学習を推進する。まちづくり推進室と連携し、小学校6年生を対象とした「まちなみ歴史探検」事業を継続して活用する。</p> <p>○「なかつスクスクプロジェクト」と連動し、各校区の公民館を拠点とする「協育ネットワーク」を活用した学校支援をさらに推進する。</p> | 4 | B | 学校教育課 |
| <p>○平成25年度（平成26年3月31日現在）、不登校（不登校を理由に30日以上欠席）の状況にある小学生は17名（前年度比増減0名）で、中学生は62名（前年度比9名減）である。（出現率は小学校0.36%、中学校2.58%）</p> <p>○各学校では、毎週、連絡票を市教委に報告することにより、欠席の子どもをより意識するようになってきている。また、早い段階（登校しぶり状況）での市教委指導主事の訪問、適応指導教室指導員の相談等の支援につなげている。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○不登校の未然防止に努める。（授業改善・学び合い）</p> <p>○長期欠席者について個票を作成し、指導経過を明確にし、組織的に支援することを継続する。</p> <p>○学校指導専門員、不登校対応指導員、不登校対応嘱託員の活用を推進する。</p> <p>○関係機関と連携した効果的な支援体制を早期対応の段階で機能させる。</p> | 4 | B | 学校教育課 |

| No | 分類 | | | 目 標 |
|----|----|---|--------------|--|
| | 大 | 中 | 小 | |
| 11 | 3 | F | いじめ問題 対策 | <p>「学び合いのある授業づくり」の推進を通して、いじめの未然防止を行い、学校での組織的な対応を充実させる。</p> <p>また、関係機関と事案に応じた効果的な連携体制を取り、解消率100%を目指す。</p> <p>○アンケート調査、教育相談などを充実させ、早期発見・早期対応を行う。</p> <p>○市教委による「学校問題解決に係る支援」を一層充実させる。</p> <p>○県派遣のスクールカウンセラーを効果的に活用する。</p> <p>○「24時間いじめ相談ダイヤル」、「義務教育なんでも相談」「人権SOS ミニレター」などを周知させる。</p> |
| 12 | 3 | G | 教育補助員 の拡充 | <p>中津市において、通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする幼児・児童・生徒が増加傾向にある。(通常学級に約3.5%在籍)</p> <p>現在、個別の支援が必要な子どもに対して、「個別の指導計画」・「個別の教育支援計画」を作成し、担任と教育補助員とで連携しながら教育にあたっている。(平成24年度42名)</p> <p>特別支援の必要な幼児・児童・生徒に対しては、校内支援体制をさらに充実する。</p> <p>また、教育補助員を一層効果的に活用する。</p> <p>○「個別の指導計画」を作成し、各学校においてコーディネーターを中心に関係機関及び家庭と連携した支援を進める。</p> <p>○教育補助員の適切な配置と充実を図る。(担任との連携体制)</p> <p>○教育補助員の資質向上のための特別支援教育研修会の内容を一層充実させる。</p> |
| 13 | 3 | H | 教職員研修 の充実 | <p>教職員のOJT(職務を通じた能力開発)、人材育成、資質向上を図る。また、「学び合いのある授業づくり」をより一層定着させる。</p> <p>○中津市授業研究会 ・東京大学佐藤学氏の招聘(授業観察・指導助言・講演)一年2回</p> <p>○学校支援事業 ・大分大学伊藤安浩氏の招聘(授業観察・指導助言)一年15回</p> <p>○先進地研修 ・全国レベルの実践校への視察(小10名・中10名)、英語教員視察(5名)</p> <p>○校内研修の充実 ・指導主事、学校指導専門員の積極的な参加(指導助言)</p> |

| 達成状況 | 自己評価 | 総合評価 | 所管課 |
|--|------|------|-------|
| <p>○平成 25 年度（平成 26 年 3 月 31 日現在）の認知件数は、小学校 383 件（うち解消 369 件・解消率 96.0%）、中学校 97 件（うち解消 92 件・解消率 95.0%）となっている。</p> <p>○学校問題支援アドバイザー（弁護士）による支援体制を試行的に行った。（いじめに関する支援件数 3 件）</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○学校において、いじめ防止のための取り組み、早期発見・早期対応の在り方、教育相談体制、生徒指導体制、校内研修などについて定め、具体的な対応を取る。</p> <p>○各学校において、「学校いじめ防止基本方針」を策定する。</p> <p>○「中津市いじめ防止基本方針」の策定と周知徹底を図る。</p> <p>○解消が困難な事案については、必要に応じて学校問題支援アドバイザー（弁護士）より適切な指導・助言を受けることで、解消につなげる。</p> | 3 | C | 学校教育課 |
| <p>○「個別の指導計画」は、特別支援学級在籍の児童生徒全員に作成できた。PDCA サイクルで学期毎に修正し、次学期の適切な支援につなぐことができている。</p> <p>○教育補助員を 3 名増員し、48 名配置することができた。</p> <p>○教育補助員の研修については年 4 回おこなった。具体的な支援の在り方や各校（園）の取り組みの交流を図り、効果的な支援方法について研修を深めることができた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○通常学級では、特別な教育的支援を必要とする幼児・児童・生徒を中心に据えた授業改善（ユニバーサルデザイン）に教育補助員と連携して取り組む。</p> <p>○教育補助員の資質向上のために、特別支援教育研修の更なる充実を図る。</p> <p>○教育補助員の増員に努める。</p> | 4 | B | 学校教育課 |
| <p>○中津市授業研究会 2 回開催でのべ 80 名程の参加があった。</p> <p>○先進地視察研修に 15 校 30 名が参加。その環流により校内の授業改善に生かされた。</p> <p>○伊藤教授の招聘校 14 校。専門家による指導助言は教職員の授業意識改善につながった。</p> <p>○指導主事や学校指導専門員等による学校訪問は、のべ 150 回以上であり、全ての学校において指導・助言を行った。複数回に及ぶ学校も増加した。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○中津市授業研究会、先進地視察、指導主事や学校指導専門員による学校訪問（校内研修参加）を継続して実施し、教職員研修の一層の充実を図る。</p> <p>○増加する臨時講師へ対する効果的な研修を検討する。</p> | 4 | B | 学校教育課 |

| No | 分類 | | | 目 標 |
|----|----|---|---------------|--|
| | 大 | 中 | 小 | |
| 14 | 3 | I | 小規模小学校適正配置の検討 | <p>耶馬溪教育センター管内の児童数は平成25年度144名であり、5年後(平成30年度)を推計した場合には107名となることが想定される。耶馬溪地域内小学校5校を1校に再編し、小・中連携の強化を図るべく耶馬溪中学校敷地内に新たな小学校を新設し、開校を目指している。</p> <p>○現状と将来の教育のあり方を耶馬溪地域全体の問題として議論していただき、引続き、教育委員会の方針について理解を求めていく。(1校案を基本とした過渡的2校案)なお、各校区のPTA及び耶馬溪地区保護者会が抱える不安材料等(学校建設場所及び運動場使用、通学方法等)の解消に取り組む。</p> |
| 15 | 4 | J | PTAとの連携強化 | <p>PTAと連携して、人づくりの基盤である家庭教育の充実を図る。</p> <p>○PTA総会、授業参観日、中学校統一学校公開日の持ち方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校のPTA総会参加率アップ(小73%・中45%) ・各小中学校の授業参観日の参加率の向上(小70%・中50%) ・中学校統一学校公開日の参加者アップ(1,500名以上) <p>○開かれた学校づくりを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校公開日の設定・学校評議員制度及び学校評価の充実・なかつスクスクプロジェクトの活用・学校ホームページの充実 |

| 達成状況 | 自己評価 | 総合評価 | 所管課 |
|--|------|------|------------------|
| <p>○耶馬溪地域の小学校 5 校のうち、永岩小学校が地域からの要望もあり平成 25 年度末をもって閉校となり、在校生 2 名は津民小学校へ転入となった。</p> <p>○4 小学校の中の 1 校の保護者に、個人ごとに学校の統廃合に関する思いを聴いた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○今後も引き続き、保護者や地域住民へ教育委員会の方針を伝え、理解していただけるよう努めていく。</p> | 3 | C | 耶馬溪教育 C 教育総務課 |
| <p>○PTA 総会参加率は、小学校で減 (71.6%→69.2%)、中学校で減 (39.7%→37.4%)、小中全体で減 (60.7%→58.5%) である。</p> <p>○中学校統一学校公開日参加数は、1,352 名 (前年度比+104 名) であった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○目標協働達成校に 3 校 (今津小・今津中・城北中) を指定し、家庭・地域が能動的に学校と協働する取り組みを行う。</p> | 3 | C | 学校教育課 |

| No | 分類 | | | 目 標 |
|----|----|---|-------------------|---|
| | 大 | 中 | 小 | |
| 16 | 4 | J | 生活習慣、学習環境、家庭学習 | <p>モデル地域を指定し、地域と連携して人づくりの基盤である家庭教育の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣、テレビ・ゲーム時間の調節、家庭学習の習慣づけなどについて小中で連携して指導する。（「生活習慣意識調査の数値を県平均に近づける） ○各学校作成の「家庭学習の手引き」を、保護者へ周知徹底するとともに効果的に活用する。 ○小中連携と公民館活動の活性化を絡めた取り組みの実践（今津校区） |
| 17 | 4 | J | 生活習慣、学習習慣、家庭学習 | <p>学校教育活動の整備や地域の教育力の活用などが子どもの学力向上に効果的に結び付くためには、家庭との協力連携が不可欠であると考えるが、その具体的な手立てができていないのが現状であるため、家庭の教育力向上のための家庭教育支援システムを構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市内にモデル校区を指定し、公民館が拠点となっている校区ネットワークを活用する。 ○モデル校区のPTA活動の活性化を図る。 ○モデル校区の学校、家庭を含めた地域住民の課題意識を高揚させる。 ○大分県教育委員会との連携を強化する。 |
| 18 | 5 | K | コミュニティーセンターの計画的建設 | <p>老朽化した公民館は建築年の古い順に随時建設を行っている。今年度は、住民のニーズに応え、如水・今津の工事が滞りなく出来るよう準備を進める。 また、小楠については外構工事を9月末迄に終了し、10月に竣工式が出来るようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小楠については外構工事を8月末までとなっているので、それに合わせ備品類の契約を行い、竣工式に間に合わせる。 ○如水については、木・竹の伐採、家屋の解体をし、造成工事・実施設計迄を平成25年度末までに行う。 ○今津については、実施設計を行い本体工事の発注をし、県に繰越承認を得て3月末に契約変更を行う。 |

| 達成状況 | 自己評価 | 総合評価 | 所管課 |
|---|------|------|-------|
| <p>○平成 25 年度小学校 5 年生、中学校 2 年生の状況としては、「平日・休日の学習時間」は共に県平均を下回り、特に、中学校では休日の学習時間が 10 分以上下回っている。</p> <p>○本年度は、モデル地域での取り組みが十分ではなかった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○学力向上会議、PTA 総会、学級懇談会、家庭訪問、ホームページ、通信などを活用して、児童生徒の実態を保護者に伝え、保護者と連携しながら家庭教育の充実を図っていく。</p> <p>○目標協働達成校に 3 校（今津小・今津中・城北中）を指定し、家庭・地域が能動的に学校と協働する取り組みを行う。</p> | 3 | C | 学校教育課 |
| <p>○大分県公民館連合会の委託を受けて、今津校区をモデル校区として取り組みを行ってきたが、家庭教育に特化した取り組みには至らなかった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○次年度も引き続き、モデル事業を推進し、学校、家庭、地域が家庭教育に関する課題を共有し、その解決に向けての具体的な活動を通して、家庭教育の充実を図っていく。</p> <p>○「しつけ」については、子育て支援課等と連携し、親の学習のための人材を育成する。</p> | 4 | C | 社会教育課 |
| <p>○平成 25 年 9 月 26 日小楠コミュニティーセンター竣工</p> <p>○平成 26 年 3 月如水コミュニティーセンター造成工事終了</p> <p>○平成 26 年 3 月 6 日今津コミュニティーセンター着工</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○今津コミュニティーセンター平成 27 年 3 月竣工予定</p> <p>○如水コミュニティーセンター平成 26 年 7 月着工、平成 27 年 7 月竣工予定</p> | 4 | B | 社会教育課 |

| No | 分類 | | | 目 標 |
|----|----|---|------------------|---|
| | 大 | 中 | 小 | |
| 19 | 6 | L | 中津市地域協育振興プラン推進事業 | <p>子どもの育成を地域が支援するという活動自体は手段であり、本来の目的は、その活動を通して地域づくりを行うことである。事業の実施を通して、地域づくりに貢献できる人材の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市内にモデル校区を指定し、公民館が拠点となっている校区ネットワークを充実させる。 ○モデル校区において、地域づくりをテーマに熟議ができる場を創造する。 ○モデル校区の学校、家庭を含めた地域住民の地域課題意識を高揚させる。 ○大分県教育委員会との連携を強化する。 |
| 20 | 6 | L | 放課後子ども教室（学びの教室） | <p>事業に関わる大人の高齢化や固定化、後継者が課題となってきたことにより、新規人材の発掘、確保、後継者の育成等、今後の活動の工夫が望まれる状況下にある。新規人材の発掘、後継者の育成と地域団体、校区ネットワーク会議との連携、協力を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○担当者が各教室の現状を把握し、新規人材や新規団体を発掘、確保するための情報収集に努め、情報をコーディネーター会議を通して発信していく。 ○各教室同士の支援者、団体、校区ネットワーク会議との情報交換を密にし、支援者の共有化を図るとともに、現支援者の中から中心となる後継者を育成していく。 |

| 達成状況 | 自己評価 | 総合評価 | 所管課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--------|--------|-------|-------|--|-----|-----|-----|-----|------|--------|--------|------|------|-----------|------|------|------|------|---------|------|------|------|-----|---|---|-------|
| <p>○学校支援活動回数、支援ボランティア数ともに増加。 【学校支援活動数】2,048回(昨年度1,687回) 【支援ボランティア実数】3,081人(昨年度2,925人)</p> <p>○地域づくりに貢献した人材の育成については、具体的な事例としては把握できていないが、ボランティアの実人数が着実に増加している。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○学校支援活動、放課後支援活動は全市に定着しており、その活動にボランティアとして参加する人数も年々増えている。そのような人材が、学校や子どもたちのためだけでなく、自分たちが生活する地域づくりにも積極的に参加できるための具体的な場を作らなければならない。</p> <p>○昨年度より県から指定を受けている公民館モデル事業において、今津公民館を拠点とした校区ネットワーク会議が今津校区の地域づくりに果たす役割を検証し、その効果を市内に広めていく。</p> | 3 | C | 社会教育課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>○放課後中津子ども教室(学びの教室含) 【実施校区…担当者23小学校区】</p> <table border="1" data-bbox="183 952 1066 1220"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">子ども教室</th> <th colspan="2">学びの教室</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施日数</td> <td>1,269日</td> <td>1,225日</td> <td>737日</td> <td>611日</td> </tr> <tr> <td>実登録数(子ども)</td> <td>909人</td> <td>881人</td> <td>475人</td> <td>345人</td> </tr> <tr> <td>実人数(大人)</td> <td>490人</td> <td>469人</td> <td>104人</td> <td>84人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○コーディネーター会議…年4回開催</p> <p>○啓発用ポスターを学校、公民館、市内商業施設に掲示した。</p> <p>○公民館講座、生涯学習大学の受講者へ、学習成果の子どもたちへの還元を依頼することにより、新規人材の発掘へ結びつける手立てとしてきた。また、若年層の安全管理委員及び学習アドバイザーには未来のコーディネーター候補としての意識をもってもらうよう働きかけることによって、次世代人材の育成及び発掘へ結びつける手立てとしてきた。平成25年度については1教室において若年層の安全管理委員及び学習アドバイザーとして関わっていた人材がコーディネーターとして教室を運営してきた。また、コーディネーターをやめた人材も教室との関わりをやめることなく安全管理委員として子どもたちの指導にあたった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○事業に関わる大人の高齢化や固定化が課題となってきたことにより、新規人材の発掘、確保等に向けての方法、今後の活動の工夫を検討していく。また、安全管理委員及び学習アドバイザーにはコーディネーター候補としての視点をもって人材育成を行う。</p> | | 子ども教室 | | 学びの教室 | | H24 | H25 | H24 | H25 | 実施日数 | 1,269日 | 1,225日 | 737日 | 611日 | 実登録数(子ども) | 909人 | 881人 | 475人 | 345人 | 実人数(大人) | 490人 | 469人 | 104人 | 84人 | 3 | C | 社会教育課 |
| | | 子ども教室 | | 学びの教室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | H24 | H25 | H24 | H25 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実施日数 | 1,269日 | 1,225日 | 737日 | 611日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実登録数(子ども) | 909人 | 881人 | 475人 | 345人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実人数(大人) | 490人 | 469人 | 104人 | 84人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| No | 分類 | | | 目 標 |
|----|----|---|--------------------|---|
| | 大 | 中 | 小 | |
| 21 | 6 | M | ワンパク！ たんけん中津 | <p>中津の歴史や産業について、中津ライオンズクラブの支援を受け、1泊2日の日程で現地視察し、見聞することによって知識を深め、ふるさと中津の再発見や愛着を持ってもらうことを目的に実施している。また、宿泊を通して他校児童・生徒との交流も図っている。しかし、参加児童在籍校の片寄りと三光地域、本耶馬溪町地域、耶馬溪町地域、山国町地域の小学校からの参加が少ないため、旧下毛地区の参加者を増やすには、周知方法や学校との連携方法を検討する必要がある。</p> <p>○地元に住んでいながら行ったことがない場所や体験したことがない活動などを取り入れ、地元の児童にとって、魅力のあるものにする。</p> <p>○募集時期に担当者が旧下毛地区の学校訪問を行い、児童の応募を促す。</p> |
| 22 | 6 | M | なかつキッズ・サイエンス | <p>小学校4,5,6年生を対象に科学実験や自然体験学習を2日間にわたって実施している。しかし、参加者の学校区に偏りがあり、これまで参加実績の少ない学校からの参加児童の増加を図る。</p> <p>○従来の開催場所（北部公民館）を見直し、市内全域から寄り付きのよい会場にする。</p> <p>○これまで、中津地区の小学校だけの募集であったが、三光地区の小学校にも募集をする。</p> |
| 23 | 6 | M | 三保小学校 人形劇クラブの育成 | <p>練習成果の発表として、毎年2月に開催される原田神社の万年願で演目を披露している。さらに年度のまとめとして、校区の介護福祉施設で発表し、利用者からたくさんの喜びの声を得た。</p> <p>子どもたち自身には発表を通して、地域のお年寄りの方々にこれからも喜んでもらおうという気持ちが芽生えている。今後も万年願以外にも人形芝居の発表の場をつくり、郷土を愛する心の醸成を図りたい。</p> <p>○老人介護施設やその他福祉施設等の慰問での上演ができるようにコーディネートする。</p> |

| 達成状況 | 自己評価 | 総合評価 | 所管課 |
|---|------|------|-------|
| <p>○活動内容…【1日目】開会行事（三光公民館）、コスモス園見学八面山平和公園・資料館（見学・紙芝居）「八面山より平和の願いを込めて」、羅漢寺（見学・座禅体験）、コスモスしおり作り、本耶馬溪むかし話（紙芝居読み聞かせ）「青の洞門」【2日目】オランダ橋・青の洞門見学、競秀峰登山、そば打ち体験手づくり、そば試食、閉会行事（やかた田舎の学校）など下毛地区小学生にとっても普段行かない場所を訪問地に選んだり、興味深い体験活動を組むことで参加者の満足度が高まった。</p> <p>○募集方法…旧中津地区 11 小学校区は各学校に配布。旧下毛地区 12 小学校へは出向いて、学校長に直接募集依頼した。参加者数…44 人（平成 24 年度：43 人）・校区別参加者数：旧下毛/全体：10 人/44 人</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○参加児童の在籍校の片寄りと三光地域、本耶馬溪町地域、耶馬溪町地域、山国町地域の小学校からの参加が少ないので、今後も告知方法、学校との周知協力を工夫していく必要がある。</p> | 4 | B | 社会教育課 |
| <p>○開催場所を市内（三光地区を含む）全域から寄り付きのよい、また、駐車スペースの広い会場にしたことでリピーター及び新規参加者の参加につながったと考える。</p> <p>○参加実績のない三光地区小学校からの 4 年生の参加を得たことについては、科学実験及び化学工作学習、山国川での環境学習への需要度が増してきたためであると考えます。</p> <p>○校区ごとの参加希望者の偏りについては、今後も募集の際に学校と周知協力していくことを検討していきたい。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○参加児童の在籍校の片寄りと三光地域、本耶馬溪、耶馬溪、山国地域の小学校からの参加を促すために告知方法、学校との周知協力を検討し工夫していく。</p> | 4 | B | 社会教育課 |
| <p>○クラブ児童は伝統芸能の練習を通して、行儀作法とコミュニケーションの取り方について熱心に学習することができた。練習成果の発表として、2月2日に開催された原田神社の万年願で演目を堂々とした立ち振る舞いで披露することができた。</p> <p>○校区内外の福祉施設の利用者に向けての学習成果発表について、今年度は実施に至らなかった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○毎年恒例である 2 月に開催される原田神社の万年願での演目披露に加え、校区内外の福祉施設でのふれあい公演を早い時期に企画し、実施していくことで定着を図り、万年願前の中津市内福祉施設での公演などの発表の機会を増やしていきたい。</p> | 3 | C | 社会教育課 |

| No | 分類 | | | 目 標 |
|----|----|---|--------------------|--|
| | 大 | 中 | 小 | |
| 24 | 6 | M | 福澤諭吉記念事業 | <p>福澤諭吉の遺徳を顕彰し、それを継承するために福澤諭吉記念祭実行委員会が、毎年3つの記念事業（弁論大会、書写展、かるた大会）を実施している。それぞれの事業の周知を市民へ行い、一般観覧が可能な弁論大会と書写展への一般観覧者の増加と小中学校かるた大会への出場チームの増加を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○福澤諭吉記念事業ポスターの製作 ○ケーブルテレビ等、マスメディアの活用 |
| 25 | 6 | M | 公民館活動における地域のふるさと学習 | <p>公民館活動において、それぞれの校区の歴史をはじめ、「黒田官兵衛」など校区にとらわれずに郷土を知る学習の場を増やし、受講生の増加を図る。また、地域の歴史を次世代に伝えることができる人材の育成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公民館講座への人材活用と郷土の歴史を学ぶ公民館サークルの活性化を図る。 ○公民館を中心としたネットワークを活かしたふるさと学習や事業を展開する。 ○高齢者教室や女性学級の講座において、「黒田官兵衛」関係の学習を取り入れる。 |
| 26 | 6 | M | 中津市生涯学習大学「中津学」 | <p>近年、受講生の固定化が課題であり、年々受講者が減少してきているため、年間の講座内容を市民のニーズに合ったものにし、受講生を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「黒田官兵衛」を中心に文化財課や軍師黒田官兵衛推進室と連携を図りながら実施する。 ○受講カードを評価として効果的に活用する。 |

| 達成状況 | 自己評価 | 総合評価 | 所管課 |
|--|------|------|-------|
| <p>○記念事業の開催について、ケーブルテレビを利用して告知し、周知を図った。</p> <p>○弁論大会では、約70人の一般の観覧があった。</p> <p>○書写展は会場を移し、図書館で開催することにより図書館利用者の観覧もあり、入場者が増えた。</p> <p>○諭吉かるた大会は、31チーム（昨年度30チーム）が出場し、1チーム増えた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○3事業共に定着している事業となっているが、さらに市民への周知を図るために広報活動の工夫に努めたい。</p> | 4 | B | 社会教育課 |
| <p>○公民館活動はもとより、地域のふるさと学習などに公民館利用者が積極的にに関わり、一定の成果を収めた。</p> <p>【具体的な事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館講座として、豊田、三保、和田校区の歴史を知る講座を実施。 ・各公民館で、「黒田官兵衛」に関する講座を34講座実施。 <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○今後も各公民館においてそれぞれで実施しているふるさと学習が継続できるための整備と地域のふるさと学習に果たす公民館の機能を考えて実践していく。</p> | 4 | B | 社会教育課 |
| <p>○年間受講者数 平成25年度 687人（8回開催 1回平均 86人） 平成24年度 300人（9回開催 1回平均 33人）</p> <p>皆勤者 平成25年度 7人 平成24年度 5人</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○平成26年中は、黒田官兵衛に関する講座を数回入れて、受講者の確保を図りたい。その他は、これまでの中津学であまり取り上げられなかった分野の内容を考えていく。</p> | 4 | B | 社会教育課 |

| No | 分類 | | | 目 標 |
|----|----|---|---------------------------------|--|
| | 大 | 中 | 小 | |
| 27 | 6 | M | 「なかつ学 びんびく (子ども中 津検定)」 | <p>検定を通して、郷土中津の自然、動植物、歴史、昔話、偉人、文化、産業と交通、お祭り・イベントなどについて学び、自分たちの暮らすまちを知ることによって、故郷中津に愛着を持ち、故郷を誇りに思う心情を育てることを目的としている。</p> <p>受験した子ども達には、次の検定でさらに上の級を目指そうという意欲が現れている。</p> <p>しかし、旧市内の受験生が大半を占め、旧下毛地域からの受験生はごくわずかであり、事後アンケートの結果、日程と場所の設定が課題として現れた。従って、旧下毛地区から受験生を増やす取り組みを実施する。</p> <p>○児童が参加しやすいよう、検定実施日を調整する。 ○検定会場を市役所だけでなく、旧下毛地区にも検定会場を設ける ○旧下毛地区の学校に検定への参加協力を行う。</p> |
| 28 | 6 | M | 偉人シリー ズ、マンガ本 の発刊 | <p>地域に対する誇りと愛着の心を育み地域の活性化を図ることを目的とし、郷土の埋もれた偉人の業績を顕彰するため、隔年でマンガ本を発刊している。来年度マンガ本を発刊するために、今年度は郷土の埋もれた偉人の選定作業を行なう。</p> <p>○候補の一覧および候補の資料を収集する。</p> |
| 29 | 7 | N | 利便性の向 上 | <p>だれもが気軽に利用できる「市民の本棚」となるような図書館づくりを目指す。</p> <p>○県下公立図書館の開館時間や開館日数を調査し、その結果を参考にし、中津市の実情に応じた開館時間の延長や閉館日数の削減、これらの実施に伴う職員体制について検討を行う。 ○施設設備の整備（IC タグの導入）</p> |

| 達成状況 | 自己評価 | 総合評価 | 所管課 |
|---|------|------|---------|
| <p>○開催日を夏休み期間中の日曜日に設定した。受験者 50 名。旧下毛 3 地区の受講は 1 名で、昨年度より 1 名減少した。下毛地区の受験者の希望により、全員市役所で実施した。</p> <p>【成績】1 級（ふるさとマスター認定）…2 名（37/40、36/40） 2 級…8 名、3 級 17 名、平均 26/40</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 ○公式ガイドブックについては、新 4 年生には改訂版を配布し、追加事項については、パンフレットにして 4 年生～6 年生に配布する。 また、本事業を同じ目的を持つ「ワンパク！たんけん中津」とタイアップし、受験者の増加につなげ、事業を広めて行きたい。</p> | 4 | B | 社会教育課 |
| <p>○中津市には、福澤先生以外にも素晴らしい業績を残した人物が多数いるが、その中から水島鍊也（教育者）、池中康雄（マラソン選手）、宇都宮仙太郎（酪農家）、和田豊治（実業家）、村上姑南（儒学者・医者）に候補者を絞り、検討の結果、漫画化の候補として、下毛郡中摩村（現山国町）生まれの村上姑南及び金谷の生誕地が公園になっている水島鍊也の二人を選定した。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 ○漫画家と慎重に協議を重ね、より良いマンガになるように努める。</p> | 4 | B | 文化財課 |
| <p>○大分県立図書館が調査した資料に基づいて、県下公立図書館の開館時間や開館日数等の聞き取り調査を行い、それにより時間延長や休館日等の変更について図書館内部等にて検討を行った。 しかし、運営等詳細にわたっての検討が十分にできなかった。 ○IC タグ導入目的であった盗難防止に沿って新しい資料を中心に行った結果、21%に導入することができた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 ○県下公立図書館の調査（閉館日、開館時間、運営形態）は行ったが、職員の勤務体系など詳細な調査を行っていなかったため、中津市立図書館以上にサービスを行っている図書館の内容を詳細にわたって調査検討し、閉館日や開館時間等の方針を出すようにする。</p> | 3 | C | 小幡記念図書館 |

| No | 分類 | | | 目 標 |
|----|----|---|-----------------|---|
| | 大 | 中 | 小 | |
| 30 | 7 | N | 学校図書館との連携 | <p>平成 24 年度まで、旧市内の小学校へ 1 学年に 100 冊程度の本を年 2 回（春と秋）、団体貸出しを行っていた。これは学校の要望に基づき本を提供しているものではなく、図書館からの一方的な事業であったため、学校または学級ごとに利用状況の差があった。</p> <p>本年度より 2 校に 1 名配置された学校図書館司書等を活用し、学校から図書館、図書館から学校への連携方法を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館の調査（施設、設備、書架、蔵書数等） ○学校図書館の図書整理の方法の確立 ○学校司書教諭及び司書との連絡会議を開催する。 |
| 31 | 7 | N | 子ども読書活動推進計画の策定 | <p>平成 24 年度に基本計画を策定し、平成 25 年度には、実施計画を策定することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校教育課、社会教育課等と連携・協議して策定する。 ○ボランティア団体等との連携を図る。 |
| 32 | 7 | 0 | 芸術文化事業（木村記念美術館） | <p>美術館活動の周知徹底を図るとともに、より多くの方に利用してもらえるよう、来館者増に向けた取り組みを強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年 4 回の常設展に加え、企画展や美術関連イベントの開催を通じて、美術館事業の充実を図る。 ○観覧料の減免などを活用し、各文化施設などとも連携して、気軽に利用しやすい環境を整備する。 ○インターネットなど各種メディアを活用して、積極的な広報活動を行う。また、学校への周知方法については、校長会や学校教育課と連携して検討する。 |

| 達成状況 | 自己評価 | 総合評価 | 所管課 |
|---|------|------|-------------|
| <p>○学校図書館との連携を図るため、3回の会議（6月・8月・12月）を実施し、互いの連携方法の確認をして新たな貸出しを行った。 また、学校図書館の調査を実施し、学校図書館がどのような状況にあるのかを把握して、その後の貸出し図書及び資料の質の向上を図っていくことができた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 ○学校の求める学習資料提供が従来よりできるようになったが、より多くの学校で利用をしてもらうため、学校司書と図書館司書の交流の促進を図る必要がある。</p> | 4 | B | 小幡記念 図書館 |
| <p>○学校教育課、社会教育課等と連携・協議して、目標数値を設定した実施計画書を策定した。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 ○実施計画書に基づき、図書館を含め関係課が実施しているかどうかの検証を行う。</p> | 4 | B | 小幡記念 図書館 |
| <p>○年4回の常設展に加え、「K-Taのきり絵展」「宇治山哲平展」の2回の美術企画展を実施。来館者数は、2,436名で前年（881人）を大きく上回った。 ○鑑賞授業（鶴居小）や出前講座（大分市）を実施したほか、新聞や情報誌等を活用した広報活動を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 ○来館者増が一過性のものにならないよう、来館者の動向なども分析を的り確な事業展開を行う。県立美術館のオープンを見据えて、県などとも協力をして多方面への情報発信を行う。</p> | 4 | B | 小幡記念 図書館 |

| No | 分類 | | | 目 標 |
|----|----|---|--------------------------|---|
| | 大 | 中 | 小 | |
| 33 | 7 | P | 展示施設の 計画的な整備 と利用促進 | <p>◇昭和13年に建設された歴史民俗資料館の建物は、経年劣化による傷みが各所で生じており、平成23年度に実施した建物調査の資料などを使用し、歴史民俗資料館の耐震診断を行い、結果を元に対策を検討する。</p> <p>◇新歴史民俗資料館の建設を検討する。</p> <p>◇歴史民俗資料館、村上・大江の両医家史料館、耶馬溪風物館の入場者の増加を図る。</p> <p>○歴史民俗資料館の耐震診断を実施する。</p> <p>○新歴史民俗資料館の建設については、新資料館の展示や収蔵スペース等の内容の検討のほか、建設地についても検討する。</p> <p>○歴史民俗資料館、村上・大江の両医家史料館、耶馬溪風物館の入場者の増加への取り組みとして、福澤記念館と中津城天守閣が共通チケットで入館できるようになることから、その共通チケットを所持している方が、村上・大江の両医家史料館に入館する場合、入館料を100円とし、入館者の増員につなげる。耶馬溪風物館についても、昨年と同様企画展を開催し、入館者の増加を目指す。</p> |

| 達成状況 | 自己評価 | 総合評価 | 所管課 |
|---|------|------|------|
| <p>○平成 25 年度に耐震診断を実施した結果、木造建築家屋については耐震補強工事が必要であるが、収蔵庫として建築した建物については、耐震補強工事は不要であった。この結果を受け、今後耐震補強工事を実施し、利用方法を検討していく。</p> <p>○新歴史民俗資料館を、三ノ丁の小幡記念図書館駐車場に建設することに決定した。</p> <p>○中津城・福澤記念館の共通チケットの取扱いが平成 25 年 7 月から始まり、共通チケットを利用した入館者は、村上医家史料館では 15%、大江医家史料館では 30%を占めている。前年度との比較ができないが、比率から見て入館者サービスにつながったものと思われる。また、中津城跡に近い、歴史民俗資料館と両医家史料館は、大河ドラマの影響もあり入館者数は 5 割近く増えた。耶馬溪風物館では、企画展を実施し、入館者数は前年度に比べ 3 割以上の増加となった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○黒田官兵衛が大河ドラマの主人公になると発表されて以来、観光客が中津城や福澤記念館では大幅に増加している。歴史民俗資料館もその恩恵を受けて増えているが、大江・村上の両医家史料館までは観光客はあまり回ってこない。しかし、当課所管の施設への来館者（観光客）の中には、「中津市には見て回る場所が多い」という声がある。この声を大事にして、リピーターを増やす努力を続ける必要がある。また新資料館の建設に向けての作業をさらに進めなければならない。</p> | 4 | B | 文化財課 |

| No | 分類 | | | 目 標 |
|----|----|---|--|---|
| | 大 | 中 | 小 | |
| 34 | 7 | Q | 史跡等整備 工事、説明 板・誘導サイ ン設置 中津城イベ ント実施 | <p>平成 26 年、大河ドラマ「軍師官兵衛」放送が決定し、今後中津城下町への観光客の増加が見込まれる。しかし、城下町内の史跡は未整備のものが多く、説明看板や誘導サインが不足している。ハード・ソフト両面での中津城下町の魅力を伝える方策が求められており、中津城下町を魅力ある観光地としてアピールし、市内外の人々に、史跡としての中津城下町への理解を深めてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○おかこい山や城戸口などの史跡整備を行い、史跡をめぐる観光ルート上に誘導看板や史跡の説明板を設置する。 ○「軍師官兵衛」にちなんだウォーキングイベントを実施し、ガイドブックを作成する。 ○黒田官兵衛と宇都宮鎮房をテーマにした漫画本を作成する。 |
| 35 | 8 | R | スポーツ施 設の計画的 な整備 | <p>中津市ではスポーツ施設の老朽化が著しく、「スポーツ振興」、「スポーツ観光」を促進する上でスポーツ環境の一層の整備が望まれており、今後は計画的な施設整備を進めていく必要がある。スポーツ施設の状態を踏まえ、計画的に順次整備を行っていく。また、急を要する改修については早急に対処していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各施設の状態を把握し、施設を利用するうえで支障を来しているものや、対処が必要なものについては早急に改善する。また、利用者への正しい利用方法についても周知する。 |

| 達成状況 | 自己評価 | 総合評価 | 所管課 |
|--|------|------|--------|
| <p>○金谷口城戸口広場の整備と、福沢旧居士蔵階段設置を行い、城下町観光ポイントの強化をした。</p> <p>○城下町や中世城館の説明看板 10 基、誘導板 5 基を製作した。</p> <p>○「官兵衛ウォーク」と題したウォーキング大会を「文化庁主唱歩き・み・ふれる歴史の道第 19 回中央大会」として開催した。また、ウォーキング参加者に配る「黒田官兵衛ガイドブック」を作成し、配布した。</p> <p>○中津城北側土手スロープと誘導板の組み合わせで、本丸一周へ観光客を誘導する周遊コースを設定した。</p> <p>○「黒田官兵衛と宇都宮鎮房」のマンガ本を作成し、現在販売を行っている。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○平成 26 年度は大河ドラマ「軍師官兵衛」で中津城が採り上げられる年であり、平成 25 年度に引き続き中津城及び中津城下町全体における文化財の顕在化を図り、市内外へ情報を提供する。</p> | 4 | B | 文化財課 |
| <p>○新野球場の整備も平成 26 年度中に完成予定であり、中津総合運動場の今後の利活用についても、スポーツ推進審議会において最終答申が出され大貞総合運動公園と併せて、一帯をスポーツゾーンとして整備を進めている。また、特色あるスポーツの振興及び、遊休施設の有効利用として三光総合運動公園内の弓道場を改修し、ライフル射撃場に整備した。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○中津総合運動場は都市公園として改修整備する計画であり、土地の購入に伴う財務事務所との協議や、公園申請及び補助申請事務等の準備を都市計画課と連携し、迅速に進めていきたい。</p> | 4 | B | 体育・給食課 |

| No | 分類 | | | 目 標 |
|----|----|---|-------------|--|
| | 大 | 中 | 小 | |
| 36 | 8 | R | スポーツ施設の利用促進 | <p>施設利用満足度を高める。また、利便性の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○誰もが、どこでも、安全に、安心してスポーツに親しむことのできる環境づくりの為、日常の安全管理を強化する。また、スポーツイベントなどを誘致して、スポーツの面白さや楽しさを伝えることで、市民のスポーツの推進につなげ、延いては施設の利用促進につなげる。 ○利用度の高い施設については、休館日等の見直しを行う。 |
| 37 | 8 | S | 生涯スポーツの推進 | <p>大人から子供まで加入することができ、色々なスポーツを選べる総合型地域スポーツクラブの創設に向けて取組む。 また、様々なスポーツイベントを開催し、スポーツに触れ合える機会を増やし、定住自立圏域住民のスポーツ振興を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○5月の最終水曜日を「健康づくりの日」として施設の開放を行い、市民の健康づくりをサポートする。 ○市内の体育施設を利用して、色々な大会、スポーツを誘致し、身近にスポーツと接する機会を増やす。今年度もオリンピックデーランを開催し、定住圏域住民を含め広く誰もが参加できるスポーツイベントとして開催する。 |

| 達成状況 | 自己評価 | 総合評価 | 所管課 |
|--|------|------|--------|
| <p>○今年度は、全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技（女子）をダイハツ九州アリーナ他で開催することができ、高校トップレベルのプレーを見ることができた。また、開催期間中は、2万人以上の来場者があった。</p> <p>○利用者の多い施設の休館日を廃止する条例の一部改正を行い、平成26年度より実施する。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○今後も、引き続き各種全国大会レベルの大会やスポーツ合宿を誘致し、施設を有効利用することで、スポーツの振興並びに地域の活性化に繋がっていきたい。また、今後も利用者ニーズに沿った施設運営を行なっていく。</p> | 4 | B | 体育・給食課 |
| <p>○新たな総合型地域スポーツクラブの創設については、なかなか捗っていないのが現状だが、スポーツイベントについては、雨天にも関わらずオリンピックデーランで多数の市民の参加が得られたことや、乙武洋匡氏を招いておこなった中津市民講座についても、多くの方々の参加が得られ、市民にスポーツの面白さを改めて認識してもらうことができた。</p> <p>○市内各地区で開催するマラソン大会にも市内外から多くの出場者があった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○総合型地域スポーツクラブの創設に向け、学校や地域などと協議を進めていく。また、既存のクラブ（洞門元気クラブ）についても、法人格の取得やクラブ運営のサポートについても協議していく。イベントについては、引き続き多くの市民が参加できる事業の開催を計画する。</p> | 3 | C | 体育・給食課 |

| No | 分類 | | | 目 標 |
|----|----|---|--------------|--|
| | 大 | 中 | 小 | |
| 38 | 8 | T | 学校保健・体育環境の充実 | <p>児童生徒及び教職員の健康診断の完全実施及び事後指導の充実を図る。 また、学校環境の調査点検と改善を行う。</p> <p>○児童生徒及び教職員の健康診断の完全実施及び事後指導の徹底。 (含メンタル) ○学校環境の点検と改善。</p> |
| 39 | 9 | U | 生産者（団体）との連携 | <p>JA や漁協と連携を密にして地場産野菜等の品目と使用量を拡大する。 また、新たな生産者組織の育成について関係機関と協議する。</p> <p>○学校給食地産地消推進会議を通じて、農政水産担当部署、JA、漁協、生産者等と地場産の利用拡大に取り組む。 また、新たに地場産を活用した献立を検討する。</p> |

| 達成状況 | 自己評価 | 総合評価 | 所管課 |
|---|------|------|--------|
| <p>○児童・生徒の健康診断は適切に実施できた。</p> <p>○教職員の健康診断は、100%実施できた。(対象者 553 名)</p> <p>○学校環境の整備は学校職員衛生委員会などの意見を踏まえ、教育総務課と連携して対応している。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○校長会などを通じて教職員健康診断及び再検査について周知徹底し、引き続き 100%実施を目指したい。さらに、教職員の健康診断項目のより一層の充実を図りたい。</p> <p>○学校環境についても教育総務課と連携を取りながら、対応できることについては早急に実施していきたい。</p> <p>○学校敷地内禁煙について、保護者や地域に対しても周知徹底を行っていききたい。</p> <p>○メンタル病休者早期発見・対応を目指し、教職員ストレス診断システム実施率 100%達成に取り組みたい。</p> | 4 | B | 学校教育課 |
| <p>○平成 24 年度より、地産地消推進会議へ漁協関係者に出席をお願いし、新たに「いか、えび、ハモ、海苔」を給食用地元食材として活用することが出来た。</p> <p>○地元の野菜、肉、魚介を使った新献立「黒かん井」、「ハモだしょうどん、団子汁」を各調理場の栄養教諭等が中心となって考案し、実際に子供たちに提供することが出来、高評価を得ることが出来た。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○地場産野菜の生産者は、60 代以上の方が大半で、旧下毛地域の調理場管内では、一部で高齢を理由に野菜生産者が不在となった。このため、後継者育成を含めて様々な検討が必要となるので、農業委員会の関係者等に地産地消推進会議への出席をお願いし、この問題を解消していきたい。</p> | 4 | B | 体育・給食課 |

| No | 分類 | | | 目 標 |
|----|----|---|--------------------------|---|
| | 大 | 中 | 小 | |
| 40 | 9 | V | 児童生徒、保護者への啓発 | <p>学校の年間指導計画に基づき、食の重要性について学校と調理場が連携して給食指導を行う。</p> <p>○学校栄養職員や栄養教諭を中心に、旧中津地域は学校給食係が、旧下毛地域は各調理場長がそれぞれ協力して出来るだけ多くの学校を訪問し、子供たちに分かりやすく食の重要性等を説明することで残菜の量が減るように指導する。また、保護者に対しても試食会やPTA活動の場など、様々な機会を利用して食育を推進する。</p> |
| 41 | 9 | W | 全調理場のドライシステム化及び機械・器具等の更新 | <p>第二共同調理場分の第一共同調理場への統合に向けた増築改修工事を着実に進める。 また、各調理場の機械設備について計画的に更新する。</p> <p>○第一共同調理場の整備改修工事を計画通りに進める。また、整備改修後に残る第二共同調理場の土地、建物の利用等を検討する ○各調理場の機械設備等の現状を確認し、計画を立てる。</p> |

| 達成状況 | 自己評価 | 総合評価 | 所管課 |
|--|------|------|--------|
| <p>○学校栄養教諭や学校栄養職員が中心となって、市内の小中学校で食育指導を行った。</p> <p>○学校給食係と各調理場の場長で給食試食会等の機会を利用して、「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みへの理解と食べ残しの減量について保護者と児童にお願いをした。</p> <p>○残菜量については、平成 20 年度の一人当たり年間残菜量 7.3k g をピークに年々減少を続けていたが、平成 25 年度は一人当たり 6.0k g と前年度より 0.2k g 増加となった。</p> <p>○学校給食月間記念講演会を平成 26 年 1 月 23 日に「子供の健やかな成長を願って」というテーマで開催し、保護者を中心に 72 名の方の出席があった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○栄養教諭等によるきめ細かな食育指導活動が進められている一方で、調理場職員、学校給食係の職員が行える食育指導は、時間的にも内容的にも限られていると思われるので、学校栄養教諭等の指導に対して必要とされるサポートを行っていききたいと思う。</p> | 3 | B | 体育・給食課 |
| <p>○平成 25 年 8 月より、第一共同調理場の増築改修工事に着手し、現在、順調に工事が進められている。また、第二共同調理場については、平成 27 年度の建物解体を計画して、跡地利用の検討を継続している。</p> <p>○他の調理場については、設備の故障頻度等を参考に順次、設備更新等の計画を立てることができた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○三光、本耶馬溪、山国の各共同調理場は、全ての施設が建設から 10 年以上経過し、機械設備等も耐用年数を経過して継続使用しているものが増加しているため、毎年設備の状態に注意する必要がある。第二共同調理場で使用しなくなる備品等について、他の調理場の老朽化した備品と入れ替えるなどの有効活用でコスト削減に努めたい。</p> | 4 | B | 体育・給食課 |

Ⅲ 学識経験を有する者の知見

『基本目標に対する評価と今後に向けての課題』

大分大学名誉教授 軸丸 勇士

はじめに

教育は母親の胎内にいる時から臨終までが一人の人間に必要とされる時代になって来た。そのような長い時間の中で果たす教育委員会（教委）の役割は非常に大きい。その教委が毎年目標を掲げ、それが何処まで達成されているか自己点検や評価を実施しなければならず、大変な労力でもある。と共にそれが市民に対する説明責任でもあり、風通しの良い教育行政となる。「法にあるから」ではなく、現状を正確に把握し、市民の目線と期待を十分に汲み取った「本物の課題達成」になることを願ってやまない。

今回、後藤孔彰氏とともに施策の点検・評価を行った。その結果を踏まえ、50年近く教育に携わってきた視点から評価と課題について、代表して意見を述べる。

1. 教育委員会の充実

国づくりまちづくりの大切さが言われる中にも関わらず、予算や人員削減だけは進行し、対応しなければならぬ時にできないのが現状である。教育委員会に対しては、市民の関心が高く、要望も多い中、開かれた委員会や学校づくりに努めている状況がうかがえる。今後も住民や保護者、学校現場の声を聞き、他県や他市の事例を十分に研究し、より広い視野で教育行政の改善に努めてほしい。

2. 施設設備（学校施設の安全・安心な環境整備）

最近、社会問題にもなっている耐震化対策も前倒し予算を確保するなどして充実させており、耐震化推進計画は平成26年度が最終年度となっている。加えて、施設整備に際しては、地元木材を使用し、情操教育に役立てる工夫など努力の跡が見られる。

災害時には避難所にもなることを考えれば完全とは言えないが、それに向けての努力を期待する。

コミュニティーセンター改築や共同調理場の改修も順調に進んでおり、計画通りに完了することを期待する。

また、施策評価対象ではないが、筆者も加わり県下で最初に始めたグリーンカーテン(GC)による教室内の降温への取り組みが継続して行われており環境意識の醸成に役立っている。

3. 学びの基礎を培う学校教育（一人ひとりを大切にする教育）

学習障がいなど様々なハンディキャップを持つ児童生徒が増加傾向にある昨今、児童生徒と共に教員や各種支援者と連携しながら関わっているのは、個を大切にする意識が充ち

ていることの証である。

また、学力の向上については、一人ひとりの生きる力に関係することであり、授業の改善や小中連携等様々な努力がなされている。しかし、顕著な効果が見られるまでには至っていない。今後とも、更なる取り組みが期待される。

教育資源の有効活用や耐震補強対策は計画的に実施されており時間経過で完全になるであろう。だが、少子化が進む状況下において、学校教育充実のための小規模校の統廃合は避けては通れない。今後も、保護者や地域住民へ教育委員会の考えを伝え、理解が得られるよう努めてほしい。

4. 学校と家庭の連携

社会の変化が大きな時代であり、家庭や地域の教育力の低下が指摘されている。学校と家庭の連携に向けて色々な試みを行いつつ、更なる意志の通いを計るべく努力していることは判るが、家庭や地域住民の協力が今ひとつほしい状態である。是非、連携に向けて積極的な努力を続けてほしい。

5. 施設設備（その他の施設整備）

各地区のニーズに応じた施設建設を計画的に進め、地元木材を使用してバリアフリー化に役立てるなどし、コミュニティーセンターは生涯学習や健康づくりの拠点になりうる所として広がりつつある。今後は、ここでのソフト事業を如何に工夫し、実施するかが有効活用につながる。

6. 学びつづける生涯学習（郷土に誇りを持つ市民）

人は、「人生の手本になる人」が近くにいると良く成長すると言われている。中津の郷土や先人の偉業を知ることは、中津で育つ子ども達や大人に素晴らしい教育的影響を与えているものと思われる。

平成 25 年度もNHK大河ドラマ関連の事業を始め、各種の計画や事業が実施され、郷土に育ったことが誇れるひとへとつながる仕掛けが各所にみられる。これに参加すれば、その道のエキスパートとなり得る。また、平成 24 年度に始まった施策「学びんびっく（子ども中津検定）」の受験者を今後、増加させて行く必要がある。郷土に愛着を持ち、誇りに思う心情を育てるためにも取り組みが広がることを期待する。

7. 文化芸術の香るまち（文化・芸術活動の推進）

子どもにとっての読書は、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにし、知識を深めるうえで欠くことの出来ないものである。各地には規模の違いこそあれ図書館が設置されているが利用減がある。その主因は情報の多様化に伴う活字離れであろう。

各施設ではそれぞれに工夫を行いながら施設の稼働率の向上や利用促進を計っているが、利用者側にその気がなければ見向きもされない。そのニーズを育ませ、読書から学ぶ楽し

さや面白さを知らせるには長い時間のかかる地道な作業も必要である。今後も充実した施策に期待する。

また、地域には有形や無形、調査済や未調査の多くの文化財があると共に開発や工事に伴う埋蔵文化財の新たな発見や発掘など、それをどう整理保管し、活用するかなど課題がある。美術館や歴史民俗資料館等についても積極的に活用されることを期待する。

8. 健康づくり（生涯にわたるスポーツ振興「心豊かで健康な生活を」）

食えることと適度な運動は、健康づくりに欠かせないもの。健康づくりを行うための設備も地域に作られ、有効活用されると共に、より多くの市民がスポーツに親しむためのイベントなども積極的に行われている。

また、利用者の多い施設の休館日を廃止し、利用者ニーズに沿った施設運営を行っていることを評価する。今後も柔軟な対応に期待したい。

9. 健康な体づくり（安全安心でおいしい学校給食）

体づくりの基になる食事。バランスの良い食事が家庭で減少している現在、学校がその補給の場になっている児童生徒も居る。その中で、JA や漁協等と協力し有機野菜や地域食材を使った給食が年毎に増えてきた。地場産の新鮮で栄養に富んだ安全で安心な食品を美味しく食べられることは何物にも優る宝である。ただ、今後も安定した食材供給を受け続けるには、その生産者の後継者育成も課題となる。是非、問題解決に尽力してもらいたい。

施設面においては、その充実に向けた整備も進行中であり、今後の学校給食の目指す目標は一段と高まり期待されている。

【総評】

年度当初、新たに設定した目標に向けて各課が連携・協力しながら努力を重ねている。

施策を実施していくうえで、限られた人的、経済的資源をどう使うのか工夫していくことは、とても大切なことであると考え。これらを上手く組合せ、効果的に使うことで評価を高めることができる。

また、教育行政においてはなかなか成果や効果をはかれないのが現実である。短期間で成果を得られるものばかりではなく、将来に向けてその成果が実証されるものも多い。教育委員会には、目先の結果ばかりを追いかけるのではなく、将来の中津市の教育にとって何が必要なかを見極め、各施策を着実に継続し、評価改善していくことを期待する。そのことが、将来の中津市を担う多くの人材を生む力となる。


IV おわりに

平成 21 年 3 月に策定した『中津市教育振興基本計画』においては、今後 10 年を通じて目指すべき教育の姿、基本構想として、次の目標を掲げています。


- ・ 自立する力を育て、社会で活躍できる人材の育成
- ・ いつでも どこでも 学べる環境作り

これら目標の実現に向けては、さらに以下の（１）から（４）の４項目の達成を図らなければなりません。

- （１）義務教育修了までに、責任ある社会の一員として自立していくための基礎となる、知、徳、体、食にコミュニケーションを加えたバランスのとれた力を育てます。
- （２）学校、家庭及び地域住民その他の関係者が、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を図れる体制づくりを確立します。
- （３）誰もが生涯にわたり学ぶことができる環境を整備し、文化芸術活動やスポーツに親しむ機会を充実させます。
- （４）地域固有の文化・芸能の継承と保存整備に取り組みます。



自立する力



学習環境

平成 25 年度においては、9 項目を施策別基本目標として、41 項目を具体的な施策として取り組んできましたが、全体目標の達成に向けて効果的かつ着実に推進するためには、事業の点検とその結果のフィードバックが不可欠であり、今回の施策評価の過程においても、多くの課題が浮き彫りになりました。そのため、実施した施策について、計画（Plan）→実行（Do）→評価（Check）→改善（Action）の PDCA サイクルにより適応性や目標達成度、有効性の観点から自己点検・評価を行い、これを市民に公表し、市民の意見等の把握・反映に努め、次年度以降の進行管理を行っていきます。

